

## 平成28年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援及び 大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会（第2回）議事概要

日 時：平成29年3月21日（火）13：30～15：30

場 所：弘済会館 4階 「萩」

出席者：（委 員）明石委員、内田委員、萩上委員、勝委員、黒田委員、  
國領委員、齊藤委員、続橋委員、長尾委員、二宮委員、  
日比谷委員、平野委員

（文 部 科 学 省）松尾大臣官房審議官（高等教育局担当）、  
塩見高等教育企画課長、田浦国際戦略分析官、  
岩渕高等教育企画課国際企画室長、  
堀尾高等教育企画課国際企画室長補佐

（日本学術振興会）家理事、西川監事、長澤人材育成事業部長、  
清水人材育成事業部企画官（大学連携担当）

### 議題

（1）平成29年度「大学の世界展開力強化事業」新規事業の公募及び審査方法等について  
【質疑応答】

（平野委員長） ご意見、ご質問等をお伺いしたいと思います。委員会による決定の後、すぐに事務的な手続きをし、この事業の公募開始となります。いつもこのプログラムのときには皆様からご意見をいただいておりますが、申請する大学に対して期待すること等も含めて、是非、ご意見をいただければと思っております。よろしく申し上げます。

（國領委員） 質問ですが、例えば資料2-3 審査要項（案）の2ページ目、タイプAの交流プログラムの内容として、「実学的な分野を中心に」という表現があります。資料2-4 審査基準（案）にも、タイプAの審査の観点として「実学的な分野を中心に」という表現があります。これは何を意味しているのでしょうか。

（岩渕室長） これは日露首脳会談の場合で申し上げますと、この人的交流の話は日露の経済交流の活性化の中でかなり議論がなされてきたと承知しております。もちろん、日露の大学間交流、人的交流は経済交流に資するものに限るわけではありませんが、そうした文脈で首脳外交がされてきたということを踏まえて、「実学的な分野を中心に」と書かせていただきました。

例えば、資料2-2 公募要領（案）の13ページにお示ししているとおり、日露間には8項目の協力プランがあります。これは医療や極東開発等、非常に具体的な経済協力の項目が並んでいるので、そうしたものも念頭に選んでいく必要があるのではないかということを書いています。逆に申し上げますと、「実学的な分野を中心に」ですので、全てが全てこうしたものでなければいけないのかというと、学問の自由等もあるので、幅を広げたつもりです。そのような意図が入っているのではないかと思います。

(國領委員) インドの方は？

(岩渕室長) インドについても同様の文脈があり、経済交流というところが去年の首脳会談でも相当議論されたということです。インドの場合は8項目の協力プランのような文書はありませんが、同じような文脈で首脳外交が行われたということを意味しています。

(國領委員) ありがとうございます。

(勝委員) 1点、質問とコメントをさせていただきたいと思います。先ほど平成29年度大学の世界展開力強化事業にはタイプAとタイプBがあり、タイプBの方はプラットフォーム構築プログラムということで、ロシア、インド、それぞれ1件が採択されるということですが、資料2-5の計画調書(案)を見ると、国内の連携大学が書かれています。これはタイプBの国内連携大学にタイプAに申請している大学があった場合、両方が採択される可能性があるかと理解してよろしいのか。あるいはタイプBは一つの基幹大学であるが、タイプAと同時に採択されるのか、そこを教えていただきたいと思います。

(岩渕室長) 従来、展開力については代表校を決めた上で、複数校で連携しての提案を認めてきましたので、今回はタイプAについても、タイプBについても同様の考え方を踏襲し、代表校を決めていただいた上で連携校があることは認めるということは考えています。そのように作っていますが、必ず連携校がなければいけないということでもなく、連携校がいることが即座に有利に働くというつもりでもなく、そこは個別にどの提案がプラットフォームに最もふさわしいかという審査をいただくことを期待しております。

(勝委員) コメントですが、特にロシアやインドなど、大学の制度がなかなか確立していないところとの連携という場合には、経済協力という側面が非常に強くなると思います。先ほどの國領先生からのご質問にも関わるとは思いますが、「ロシアの生活環境大国、産業・経済の革新のための協力プラン」に即したような連携が望ましいというのは、非常に同意できるところでもあります。もちろん相互理解は非常に重要ですが、単に短期の学生の交流というものではなく、むしろ双方の大学にとって非常にメリットがあるような、特に高度な研究をベースとした交流を是非強く進めていただければと思います。

(平野委員長) ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

先ほど来、ご意見をいただいているところも含めて確認をしながら、審査部会はもとより応募される大学の皆様においても、勘案いただければ幸いです。よろしく申し上げます。

<委員了承>

(平野委員長) それでは、公募要領、審査要項、審査基準、計画調書、審査等スケジ

ジュールについて、原案どおり了承して進めることとします。よろしく申し上げます。

次に、この決定を踏まえて、文部科学省及び日本学術振興会において速やかに新規の公募を進めていただいて、本プログラム委員会及び審査部会において、公平・公正な審査を従来どおり進めていただきたいと思います。関係の方々、よろしく申し上げます。

(2) 平成 27 年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する中間評価について

(3) 平成 24 年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する事後評価について

【質疑応答】

該当なし

<委員了承>

(4) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業に対する事後評価について

【質疑応答】

(平野委員長) ただ今のご説明についてご質問等がありましたら、どうぞよろしく申し上げます。

(内田委員) 事後評価に関しては特に異論はありません。これは一度やったら、事後評価はこれでおしまいですか。

(平野委員長) フォローアップがその後にあるのかということですね。これについてはどうでしょうか。

(岩淵室長) この時点では、次年度に行う事後評価のみを想定していますが、おそらくその中で今後のフォローアップをどう進めていくべきなのか、事後評価部会の委員の先生方からいろいろなご提案があると思いますので、そうしたものを踏まえながら、どういうフォローアップをしていくか考えていきたいと思っています。

(内田委員) ご提案ですが、これだけの事後評価をするとすると、採択校も評価する側も非常に大変だと思います。ただ、補助金事業というのはブースターであり、そこから先がポイントだと思います。そういう意味で、参加校にインセンティブを与えるということも含めて、数値は各大学で取っていると思うので、2~3 ページぐらいのその報告書だけを文部科学省に出す。それをどう使うかということ、事後評価ということで点を付けてうんぬんというのはなく、文部科学省の担当官のところをそれをファイルしておいて、次回のときに参考資料とする。いわゆる加点対象で、減点はしない。報告書は出したければ出す、出さなければ出さなくてもよしという任意です。ちゃんとやっているところは多分出すでしょう。きちんとやってフォローしているところは、次回に加点対象とする。ただそれだけです。マイナスはなしです。

加点をするというのは、インセンティブとしては非常によいのです。例えば私は社長のとき、賞与のときに社長手持ちというものを作って、マイナスは一切しませんでした。社長から見てこれはという社員だけ加点する。今回のご提案も加点だけする、評価部会も開かない。文部科学省の担当官のところではファイルしておくという提案です。

(長尾委員) 内田委員の今のご提案に対して質問ですが、次回に対して加点をするとおっしゃった次回というのは、競争的資金の別のものが出たときということですか。

(内田委員) そういう意味です。

(長尾委員) そうすると、ここに採択されている大学はよいですが、私はいつも小さい大学の話をするのですが、新規で小さい大学等が応募しようというときには、以前実績があったところばかりが加点されて、採択されるようなことが起こってくるのではないかと懸念するので、そこも考慮した上で、今どうこうではなく、このご提案は何かのインセンティブというのは分かりますが、弱者のことを是非考慮していただきたいと思います。

(内田委員) 私の提案の一番の趣旨は、これで5年間で5億円もらえますというのはあくまでもブースターであって、そこから先どうやるか。そういうことがきちんとフォローされているのだということが日本国内に広まっていくことによって、その後をちゃんとやるという習慣付けができる。したがって、加点するといった場合も、今の長尾先生がおっしゃったような問題もあろうかと思しますので、それは単なる心証かもしれません。右か左かといったときに右にするというレベルかもしれません。ですから取り扱い是非常に難しいですが、そういうことがきちんとフォローされているということが大切だという意味です。

(平野委員長) ありがとうございます。もう一つあるのは、こういうプログラムで学生さんがどのように育ったのかというデータがあまりないのです。そのようなデータがないと、次のステップの新しいプロジェクトを出すときに、全体の把握ができない。これはもったいないというか、次への展開のためには説得力が必要であるということも含めて、フォローアップのデータを作っていかなければいけないのではないかという議論が別でありました。そのあたりを勘案していただければと思います。

その他にいかがでしょうか。この件についてはよろしいでしょうか。

<委員了承>

(平野委員長) ありがとうございます。それでは、今、提案いただいた評価については、皆様の手承を得たということで進めていきたいと思っております。

今日は、公開の議事としてはここで閉めさせていただきたいと思っております。傍聴された皆様、雨の中、お忙しいところをありがとうございました。ここでの説明をよくご理解いただいて、公募、あるいは審査等に当たっていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

ございました。

\*\*\*傍聴者退室\*\*\*

(5) 平成 23 年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する事後評価結果の決定について（非公開）

(6) 平成 26 年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する中間評価結果の決定について（非公開）

(7) 審査部会、評価部会委員の選考について（非公開）

(8) その他（非公開）

（非公開議事のため未掲載）

\*\*\*議事終了\*\*\*